コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	はるかなるたかみへ	1 pt	8 位	0 sp
		なんとなんと、いきなり殺人表紙ですからね。年の初めにびっくり。 　ぽんぽんぽんと２行パッケージで展開していって、どんどん情景は見えてくるのですが、トラックからあとが急ぎすぎでは。もう少し呼吸を置きたい。 　たとえばトラック。いきなり登場せず、駆け出した子供を避けようと急ハンドルを切ったあまり、と不条理な運命をより際立たせてみるとか。		
02	「神」とは	2 pt	7 位	1 sp
		大学での神、ネット上での神、あるいはとある工場での神、いろんな身近な神に着目した事例はおもしろいのに、まとめが強引だったのでは。いきなり昔と今、では枠が大きすぎるので、もっと身近な事例から、ていねいに特徴を汲み上げたいところ。 　wikiに視線が集中しましたが、こいつはレポートに引用したりすると、それだけで不可とする先生もいらっしゃるようですから、これからの季節、くれぐれもご用心。 特別賞：wiki賞（wikiつかうなよ。wikiって書くなよ。でも、wiki…良いよね） by w4肉班 イチオシフレーズ：「By wikipedia」		
03	Seize the Twilight	4 pt	6 位	2 sp
		送電塔のほうが好きだなあ、と申し上げたら、作者さんは意外に思われるでしょうか。 　この場において「リストカット」はネタなわけですが、それを脇に置いても文章やストーリーはほんとにしっかりできていたと思います。特にラスト。科学なんて、記録なんてと生き血をほとばしらせる暴力性が、さっくり心に入ってきます。 　でも、血の色を個人の個性と見るとして、全体が何の暗喩なのかなあと考えて、どうにもはまりません。敢えてネタをやったことの意味は？？ 「この場で物語を書くことの限界を見極めた」がゆえ？ 　その点、送電塔は全くのゼロからきっちりイメージ＆ストーリーを立ち上げた偉業であったのではと思い返しています。 特別賞：カット＆ペースト賞 by Tーみかん班（タイトルも内容も）　リスト賞 by 神班		
04	ある農夫の不満	0 pt	9 位	0 sp
		「私は死神である」って英語の教科書じゃないんですから、もう少し工夫した正体告白で始めたほうがコワくて宜しいのでは。 　いや、コワくなくてもよいのですが、せっかくしがない死神さんのサラリーマン哀愁という「イメージの読み替え」をやったのですから、もっとその哀愁をしっかり見せたかった。仕事のつらさなど語らせると、おもしろみが湧いたのでは。		
05	しずおかみかんが みっかんない。	16 pt	1 位	4 sp

		かわいいかわいい。タイトルだけで◎気分。 　ただ、なかの説明がちょっと長いかな。出荷時期の違い、結論はとてもシンプルなのに。 　組み立てを変えて、静岡が少ないのはシェアが少ないから？　いえいえ、シェアはこの通り、と、いったん別の解を否定してから、実はという形にしたらどうだったでしょう。 　まあ、何はともあれ、本日はみかんデー、首位＆最多特別賞＆今週のイチオシフレーズ大賞と、夢の三冠王達成、おめでとうございます!!!　ぜったい、今年はいいことあるはず（大トトロ談）。 特別賞：無賞 by Q（みかんの絵）班（無性にみかんが食べたので）/　オレンジイート賞 by Red Paper班　/ 肉食植物密柑賞 by SHIZUO班（たべたっていーじゃないか　だってみかんだもの みつを）/　どれが一番おいしいんで賞 by 顔文字（タノム）班 イチオシフレーズ：「しずおかみかん」　「無性にみかんが食べたので」×２　「しずおかみかんが、みっかんない」×２
		8 pt ｜ 4 位 ｜ 0 sp
06	―天地創造―	壮大なストーリーとして、しっとり読みました。まさに神話。 　ただ、この神話を動かすエネルギー源になっている付人たちの苦労をもっとリアルに描いて、がんばれ付人！　と読者を味方にしたかった。 　このままだと、なんだか太陽も月も作れちゃうなんて、もう神様も要らないほどにパワフルな付人さんたちに思えてしまうのです。 　とはいえ、枠組みの壮大さ、そこから醸し出される荘厳さは、新年にふさわしい逸品でした。
		15 pt ｜ 2 位 ｜ 2 sp
07	かちかち山（ねくすとじぇねれいしょん）	わはははは。けっきょく、いっつもたぬきの負け。かわいそうに。 軽快に展開しつつ、理系ネタで楽しませて、ラストにどすんと石油タンカーを置いたところが爆笑でした。 　みかんに負けたのはね～、しかたないよね～。善戦に拍手!! 特別賞：理系賞（火ってもえてたのちいね☆）by ねXと・じぇねれいしょん班　/　たぬうさ賞 by Yahaweh班 イチオシフレーズ：「俺はこの世界の神になる」「あなたは……のです」「紙の発火点は約四五〇度。」「…勝った。」
		9 pt ｜ 3 位 ｜ 0 sp
08	A Song of Silence(reprise)	「贄」というキーワードでコンパクトに悲しみをまとめ、雨＆純白の衣装と映像的な道具立てもOK。さすが練達のワザですが、うーん、手際が良すぎて（というのもミョ～ですが）、何だか雨といっしょに(赤色も含めて）流れていってしまう感。 　贄が徹底して受け身なので透明感（言い換えれば二次元っぽさ）はあるけれど、それと引き替えに、たとえば運命に抗おうとするような、ぶこつな個性が物語全体から失われてしまった気がするのです。 　手堅く３位はリッパだけれど、もっと心に刺さる人物造型、この作者さんならイケるはずなのに、と敢えて高望み。
		5 pt ｜ 5 位 ｜ 1 sp
09	ＣＯＭＥ　ＩＮＴＯ　ＴＨＥ　ＳＫＹ	おしまいは青幻想。 　「君は」という突きつけてくるような口調が臨場感を醸し出して迫力。色もしっかり感じます。 　ただ、まんなかの詩は、もっとシンプルなほうが宜しいのでは。こういうのって、言葉数が多いほどに逆に想像の余地を狭められてしまうきらいがありますから。 特別賞：いいプリンタで賞 by みかんのU班(タイトル部分の印字がキレイ）